

<第11分科会> 社会形成能力

研究課題 社会形成能力を育む教育の推進

分科会の趣旨

今、家庭や地域では、核家族化や少子高齢化が一層進み、人間関係の希薄化による孤立感が強まっている。また家庭の養育姿勢や地域コミュニティの変化に伴い、子どもが地域の活動に参加する機会も減少している。このため、家庭や地域における子どもたちの社会性を高めたり人間関係を育み広げたりする機能が低下し、コミュニケーション能力や規範意識の育成にも悪影響を及ぼしている。

学校は、これからの社会を生きる子どもたちに知性・創造性や豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが、置かれている状況の中で自己の役割を果たしつつ、他者と協力して社会に参画し、未来社会を積極的に形成しようとする態度を身に付けられるようにしなければならない。さらに、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、地域に貢献する学校づくりを進めていくことが重要である。

そのため、学校は、子どもたちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした体験的な学習活動を積極的に取り入れていく必要がある。体験的な学習活動を教育課程に位置付け、子どもたちが多様な社会の課題に触れ、その解決のために地域で一定の役割を担うことにより、社会の一員としての自覚や自発性を身に付けさせることが大切である。キャリア教育等の視点を取り入れた教育活動により、規範意識をはじめ社会的・職業的自立に必要な力、コミュニケーション能力や幅広い学力を身に付けさせることも可能となる。

本分科会では、子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等をもとに、より良い社会の形成に向け、主体性をもって積極的に社会に参加・参画し、課題を解決する能力や態度を育むための具体的方策を明らかにする。

研究の視点

(1) 社会に貢献する資質能力・態度の育成を目指す教育活動の創造

学校は、子どもたちに社会の仕組みを理解させ、自立した社会人として生きていくために必要な知識や能力を育むとともに、社会に貢献しようとする態度の育成を目指す教育活動を創造し、推進する必要がある。

子どもたちに地域活動に関わる機会をもたせるとともに、その意義や喜びを味わわせ、夢や希望をもって、心結ぶ未来社会をつくることのできる力を育むことも重要である。

このような視点に立ち、自己の役割を果たしつつ、他者と協力して社会に参画し、貢献しようとする意欲や態度を身に付ける教育活動を創造し推進する上で、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 豊かな未来の実現に貢献する力を育むキャリア教育の推進

キャリア教育は、子どもたち一人一人の将来における社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育むことを通して、キャリア発達を促すことを目的としている。

そのため、学校には、家庭や地域と連携・協働しながら、子どもたちに様々な人々や社会と関わりをもたせ、社会生活の基本的ルールを身に付けさせたり、社会の中での自己の役割を認識させ、働くことの意義や夢をもつことの大切さを理解させたりすることが求められている。また、子どもたちの興味・関心の幅を広げ、様々な分野で豊かな創造性やしなやかな知性を発揮して社会に貢献する力を育むことが重要である。

このような視点に立ち、教育活動全体を通じて体験的な学習活動を充実させ、豊かな未来の実現に貢献するキャリア教育を推進する上で、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。